

平和23年度 磐田市戦没者・戦災死者追悼式 平和への想い

平成23年8月15日（月） 磐田市民文化会館

私は、広島平和記念式典派遣団の中学生の一員として、8月5日と6日の2日間、広島を訪れました。

1日目、平和記念資料館で、当時の様子や原爆による被害について学びました。そこには、8時15分で止まったままの時計や原爆が落とされる前と後のジオラマ、焼けこげになった学生服や三輪車などが展示されていました。今まで授業でしか原爆について習ったことがありませんでした。原爆が一瞬にしてたくさんの人の生活を壊し、その上、広島をあそこまで真っ黒に染めてしまったことを知り、私たちは、まだまだ原爆の本当の恐ろしさを知らなかったと実感し、心が締め付けられたように感じました。原爆が引き起こした多くの被害の資料を実際に自分自身の目で見ること、その当時の非劇と向き合うことができました。

資料館では、当時の様子が立体模型で現わされていて、まるで私も原爆が投下されたその場にいたかのような気分になりました。その時の人たちは、どんなに熱くて、どんなにつらかったのだろう、と胸が苦しくなりました。そして、資料館の中で私が最も印象に残っているものは、「広島の人たちの平和への願い」が書かれていた記事です。

その記事には、次のように書かれていました。被爆した人たちは、「原爆に会った」と言う。一瞬の破壊、あまりに多くの死、大切な人さえ救えなかった苦しみを抱えながらも「ヒロシマ」は世界共通の願いと結びあい、平和を実現したいといつも願っている、と書かれていました。

この記事を読んで、この被爆した人たちは、みんなで相手を思いやり、苦しみや悲しみを分かち合ってきたのだと思いました。

次に、原爆ドームを見ました。今まで写真で見たことはありましたが、実際に目の前で見ると、写真では伝わってこなかった何かが心に響きました。原爆ドームは、これから核兵器の廃絶と世界の平和のためにも、とても大切なものだと感じました。

2日目、平和記念式典に出席しました。日本人以外にも今年は67カ国もの人たちが出席したことを知りました。核兵器や平和に対する関心が世界中に広がっていることは、世界の人たちに願いが伝わった証でもあると思います。私は、平和記念式典に出席して、最も感銘を受けたのは、小学生の子たちが話した言葉でした。「わたしたち一人一人は誰もがみな大切な存在であり、喜びや悲しみを分かち合い、あきらめないうちに進めば必ず夢や希望が生まれる。」という言葉が忘れられません。この言葉は、世界の人々の心に響いたと思います。

私は、これから相手を思いやり支え合いながら、平和の大切さをたくさんの人たちに伝

えていきます。また、今を生きる人間として、夢と希望があふれる未来をつくるために、行動してきたいと思います。

ところで、今年3月に東日本大震災がありました。この地震によって福島第一原子力発電所が破壊され、そのことから、今全国的な放射能の汚染が心配されています。66年前は原爆で広島が放射能に汚染されました。現在、同じような立場に立たされ、当時の人たちの気持ちが少し分かったような気がしました。

私は、広島へ行く前と後で原爆への思いが変わりました。広島へ行く前は、原爆への関心がありませんでした。しかし、今回、広島を訪れたことで、今まで知らなかった原爆の本当の恐ろしさや、日本に投下された理由、広島の人たちの願いを知ることができました。このような貴重な体験をさせてくださったことに、本当に感謝しています。ありがとうございました。

この体験を通じて、私たちの世代が、戦争の悲しさや戦争に対する怒り、愚かさをしっかりと受け継ぎ、平和な未来を築いていかなければいけないと思いました。私が通っている向陽中、そしてこれから出会う人たちに、広島で感じたことを伝えていくことが私の役目です。

最後に、核兵器も戦争もなく、すべての人々が安心して暮らせる平和な世界を願うと共に、過去の戦争で亡くなられた多くの方々のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

磐田市立向陽中学校 2年 寺田 愛華